

2003年

ライラレポート



秋のライラ

- RYLA -

- RYLA : Rotary Youth Leadership Awards -

■ メインテーマ ■

『手をつなごう!! 輝く未来は私達の手で創り上げていこう』

～今求められるリーダーシップとコミュニケーションと～



- 開催日 ● 2003年9月13日(土)～15日(月)
- 開催場所 ● 舞洲野外活動センター
- 主催 ● 国際ロータリー第2660地区 青少年活動委員会
- ホスト ● 大阪堂島ロータリークラブ

目 次

1.	ライラプログラムについて	
2.	来賓、ライラ スタッフ	
<hr/>		
3.	初級ライラ開講式 式次第	
4.	開 会 宣 言	大阪堂島ロータリークラブ ライラ実行委員長 北 研次
5.	歓 迎 の 挨 拶	大阪堂島ロータリークラブ 会 長 川本 幹治
6.	挨 拶 と 来 賓 紹 介	国際ロータリー 第 2660 地区 青少年活動委員会委員長 北山 孝和
7.	来 賓 挨 拶	国際ロータリー 第 2660 地区 ガバナー 若林 紀男
8.	来 賓 挨 拶	国際ロータリー 第 2660 地区 ローターアクト委員会委員長 石田 肇
9.	研修プログラムとスケジュール (初級)	
10.	講 師 紹 介	株式会社シーエムオー 専務取締役 川崎 桂子
11.	講 師 紹 介	株式会社タクト&アクト 代表取締役 青木 テル
12.	グ ル ー プ 報 告	
<hr/>		
13.	研修プログラムとスケジュール (上級)	
14.	上級ライラ歓迎の挨拶	大阪堂島ロータリークラブ 会 長 川本 幹治
15.	来 賓 挨 拶	国際ロータリー第 2 6 6 0 地区 青少年活動委員会委員長 北山 孝和
16.	閉 講 式 式 次 第	
17.	参 加 者 挨 拶	菅沼 小理恵
18.	講 評	国際ロータリー第 2 6 6 0 地区 青少年活動委員会委員長 北山 孝和
19.	来 賓 挨 拶	国際ロータリー第 2 6 6 0 地区 ガバナーエレクト 宮田 宏章
20.	閉 会 の 辞	大阪堂島ロータリークラブ ライラ実行委員長 北 研次
<hr/>		
21.	講 師 所 感	株式会社シーエムオー 専務取締役 川崎 桂子
22.	講 師 所 感	株式会社タクト&アクト 代表取締役 青木 テル
<hr/>		
23.	受 講 者 一 覧 表	
24.	登 録 者 R C 、 青 少 年	
25.	決 算 報 告 書	
26.	実行委員会役割分担表	
27.	あ と が き	大阪堂島ロータリークラブ

【ロータリーのはじまり】

今から 98 年前の 1905 年アメリカ・シカゴの街は経済恐慌の嵐が吹き荒れ市民生活は混沌としていました。2 月 23 日その中であって青年弁護士ポールハリスは 3 人の友人と話し合い第 1 回の会合を開いたのがロータリーの誕生です。各会員の事務所を持ち廻りで「親睦」と「奉仕」についての話し合いが続いたのです。例えば、それらの会合で街中の人々が今求めているものは何かを話し合い、街中に公衆トイレが欲しいという要望を聞きつけ、早速公衆トイレを作り、市民に大変喜ばれたという史実があります。

ロータリーがめざす奉仕活動には、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕と国際奉仕があります。

「奉仕の理想」とは「他人のことを思いやり他人のために役立とう」とする気持ちです。

【ライラ (Rotary Youth Leadership Awards=Ryla)】

「ロータリー青少年指導者育成プログラム」と訳されています。年齢 14 才から 18 才までならびに 19 才から 30 才までの若い人のためのプログラムで、国際ロータリーは、指導者としての資質のある青少年を、実地訓練の体験を通じて、責任ある有能な青少年指導者、善良な市民としての資質を一層伸ばすプログラムに参加させることをロータリークラブに奨励しています。プログラムはセミナーかキャンプの形で行われることが多く、2660 地区でも各ホストクラブの協力を得て、18 才から 30 才までの男女を対象に春と秋の年 2 回、初級ライラと上級ライラ（初級ライラ修了者を対象）を開催しています。

来賓・ライラ スタッフ

◎ 国際ロータリー 第2660地区

ガバナー	若林紀男	(大阪東)
青少年奉仕部門顧問・パストガバナー	大森慈祥	(茨木)
ガバナーエレクト	宮田宏章	(大阪北)
地区幹事(青少年部門担当)	土井孝夫	(大阪東)
ローターアクト委員長	石田肇	(東大阪東)
次期春のライラ担当クラブ会長	高橋貞夫	(豊中千里)

◎ 国際ロータリー 第2600地区 青少年活動委員会

委員長	北山孝和	(大阪中央)
副委員長	泉博朗	(大阪住吉)
委員	氏野隆司	(東大阪西)
委員	渡邊哲也	(交野)
委員	津本清次	(大阪淀川)
委員	西尾隆善	(大阪船場)
委員	片岡亥一郎	(大阪堂島)
委員	野原嗣久	(豊中千里)
委員	吉岡康雄	(大阪西北)
委員	久保義誓	(茨木)
委員	櫛田雄一	(大阪阿倍野)

◎ ユースサービス (財) 大阪府青少年活動財団

企画推進部長	酒井洋幸
主幹	長谷川徹
主幹	坂谷恵司

◎ チームライラ (上級ライラ修了者)

初級ライラ 開講式

式 次 第

司 会 竹 田 秀 道

- | | |
|-------------------------------|---|
| 1. 開 会 の 点 鐘 | 大阪堂島ロータリークラブ
会 長 川 本 幹 治 |
| 2. ソ ン グ 斉 唱
(国歌・ロータリーソング) | ソングリーダー
中 島 武 |
| 3. 開 会 宣 言 | 大阪堂島ロータリークラブ
ライラ実行委員長
北 研 次 |
| 4. 歓 迎 の 辞 | 大阪堂島ロータリークラブ
会 長 川 本 幹 治 |
| 5. 来賓の紹介とご挨拶 | 国際ロータリー第 2660 地区
青少年活動委員会
委員長 北 山 孝 和 |
| 6. ご 挨 拶 | 国際ロータリー第 2660 地区
ガバナー 若 林 紀 男 |
| 7. ご 挨 拶 | 同・ローターアクト委員会
委員長 石 田 肇 |
| 8. 閉 会 の 点 鐘 | 大阪堂島ロータリークラブ
会 長 川 本 幹 治 |

「秋のライラ」開会式

「開会宣言」



2003～2004 年

2660 地区「秋のライラ」実行委員会
委員長 北 研次
(大阪堂島ロータリークラブ)

この一年間に亘り、今日から3日間の「秋のライラ」の成功を夢みてホストである大阪堂島ロータリークラブ会員全員が心を一つにして、諸準備を続けてきました。そして只今「開会宣言」を申し上げる時が参りました。大変嬉しく思っております。

「開会宣言」

秋のライラ実行にあたり、国際ロータリー第2660地区ガバナーをはじめ、地区青少年活動委員会委員長を中心に関係者の方々、地区各クラブの皆さん及びホストの大阪堂島ロータリークラブ会員全員と受講者の皆さんが一つになってロータリーの基本理念である「奉仕の精神」を大いに発揮し、与えられたテーマにもとづき、共に研鑽を深め、大きな成果に結びつけていただきますよう期待いたしまして、ここに「開会宣言」といたします。

歓迎の挨拶

(初 級 ラ イ ラ)



大阪堂島ロータリークラブ
会 長 川本 幹治

皆様こんにちは！今回の秋ライラホストクラブ、大阪堂島ロータリークラブ会長の川本でございます。

本日は国際ロータリー第 2660 地区ガバナーの若林紀男様をはじめご来賓の皆様、ロータリアンの皆様、大変お忙しい所を初級ライラの開講式にご出席下され、誠に有難うございます。

又、初級ライラにご参加いただきます、大勢の研修生の皆様、「手をつなごう！！輝く未来は私達の手で創り上げていこう」これが今日から始まります秋のライラのメインテーマであります。皆様ようこそ参加していただきました。

海のオゾンを胸いっぱい吸い込んで、ここ舞洲において、3日間セミナー方式の研修を中心として展開する「ライラ」です。はじめて一緒に机をならべる人も多いと思いますが、全員が友愛の輪を大きく広げていただき、今回の「ライラ」に参加してよかったなあ、舞洲に来てよかったなあと心から響きあえる有意義な3日間となりますよう、大いに勉強し、楽しんでいただきたいと思います。

この「ライラ」は国際ロータリー第 2660 地区の主催です。そして私達大阪堂島ロータリークラブは、ホストとして、進行役として、昨年の 10 月より、地区青少年活動委員会北山委員長、泉副委員長の助言のもとに、ライラ実行委員会を中心として全員で準備してまいりました。この3日間が成功裡に終わりますよう、祈るような気持でおります。又、講師の先生方もチームに参加いただき、スケジュールを作り上げていただきました。私達クラブ一同大変感謝しております。

ここでロータリーのことをほんの少しだけお話しておきたいと思います。

ロータリーは今から 100 年前、シカゴにおいて弁護士のポール・ハリスの提唱により誕生致しました。世のため、人のためという言葉がありますが、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕をはじめ、特に未来の地球を支えてくれる青少年の皆様のために、いつも何か役立つことがないかを考え、奉仕活動を展開しております。

今日からはじまる「秋のライラ」もその一つです。ローターアクトという制度もあります。そして皆様も将来職業人として先輩格になられましたときには、是非ロータリー会員となって活躍して欲しいと思っております。

皆様「手を取りあって」楽しい仲間を沢山ふやして下さい。

以上をもちまして、歓迎のご挨拶とさせていただきます。

初級RYLA開講式 挨拶



国際ロータリー第 2660 地区
青少年活動委員会
委員長 北山 孝和

それでは、改めまして、青少年の皆さんようこそお越し頂きました。

ロータリアンの皆様ご協力、ご参加下さいまして有り難うございます。

ご来賓並びに地区役員の方々には、ご来席を賜り有り難うございます。

2003年～2004年度国際ロータリー第2660地区「秋のライラ」ホストクラブ大阪堂島ロータリークラブの開講にあたりましてご挨拶申し上げます。

ライラすなわちロータリー青少年指導者養成プログラムは1971年に国際ロータリーの理事会に於いて青少年奉仕活動のプログラムとして採択されました。

我が国では、1976年には当時の266地区今の2660地区で初めて実施されました。以来毎年秋と春の年2回開講しておりこれ迄にたくさんの青少年が参加されました。今回のライラは、上級RYLAと同時並行で行っております。

このライラをご準備いただきました、大阪堂島ロータリークラブの皆様には1年も前からクラブ内にライラ委員会を設置され実に14回もの会議を行い、場所は主に北実行委員長の事務所でした。後日、北実行委員長より、「委員長、先日の委員会遅くまで有り難うございました。実は今まであんなに遅くまで会社にいたことは入社以来初めてです」と聞かされ、思わず頭を下げました。又地区委員の皆様方にも大変なご苦勞をお掛けいたしました事に、お礼と感謝申し上げます。

今回のRYLAは「手をつなごう！輝く未来は私達の手で創り上げていこう」

サブタイトルに「今求められるリーダーシップとコミュニケーションと」と言うテーマでの研修となります。確実に今後の社会生活に役に立つ研修です。

21世紀を担う青少年達に家庭、学校、職場で経験できないようなプログラムをロータリークラブが提供する体験学習です。どうか3日間この知識を吸収してお帰り頂くよう願います。

そしてライラは

ライラを通じて多くの友人を作ることが出来ます。

ライラを通じてグループ活動等の人間関係を学んで下さい

ライラを通じて視野を広げて下さい。

ライラを通じてロータリーとは何かを学んで下さい

指導者（リーダー）はどう決めるか、日本社会では概ね選ぶというのが一般的でありますが、ロータリー青少年活動委員会では、指導者をRYLAプログラムで育てる事を基本にしております。

どうかこの貴重な3日間を有意義に過ごしていただければと思います。そしていい友人もたくさん作って下さい。

そして青少年と共にライラに参加されるロータリアンの皆さん、数あるロータリーの青少年プログラムの中で全てのメンバーが、登録をすることで、青少年と接する事の出来るプログラムがライラです。日常ロータリアンそれぞれが、地域、職場でどうつながっているのか教えてあげて下さい。そしてロータリーの奉仕の心を青少年たちに見せてあげて下さい。そして青少年たちすなわち新世代の若者たちの夢や行動力を理解してあげて下さい。

最後になりましたが、ホストクラブの大阪堂島ロータリークラブの川本会長、北実行委員長を初め会員の皆様、本日も出席いただきましたロータリアンの皆様、特に株式会社シーエムオーの川崎専務様この3日間宜しくお願い申し上げまして挨拶と致します。

ご 挨拶



国際ロータリー2660 地区
ガバナー 若林 紀男

残暑厳しい中、「秋のライラ」にご参加頂きました青少年の皆さん、そしてロータリー関係者の皆様ありがとうございます。

本日より3日間、初級ライラの為の研修

が開催されます。

私達ロータリーは、青少年育成の重要性を考え数多くの青少年奉仕プログラムを持っております。1907年冬の寒い日、売れない新聞を抱えて震えている新聞少年をシカゴの会員が、援助・激励したのが青少年奉仕の第1号と記録されています。そして、R Y L A (Rotary Youth Leadership Awards) はロータリー青少年指導者養成プログラムとして、R I は1971年に正式に採用したのであります。

現代の若者は、生活環境、趣味、専門、価値観等々において多様であります。その多様な若者たちを牽引していく若者のリーダーを育成することが、これからの地域社会、否、日本の将来にどれだけ大切なのかを今まで以上にロータリーは真剣に考え、今こそ若者への係りを強くすることを自覚せねばなりません。

参加された青少年の皆さんにとってこの3日間が、自分自身で気がつかなかった才能を引き出し、新しい仲間との出会いを得る事ができ、感動の時となることを期待申し上げます。

ホストを頂きました大阪堂島ロータリー・クラブ様には、長い準備期間を費やして、素晴らしい企画内容のプログラムをご提供下さいましたことに、心より感謝と敬意を表します。本当にご苦勞様でした。また、地区青少年活動委員会、及び、関係者の皆様の熱きご支援に心より御礼申し上げます。



国際ロータリー第 2660 地区
ローターアクト委員会
委員長 石田 肇

皆さんこんにちは。

2泊3日の秋のライラに参加いただきまして、ありがとうございます。この3日間のセミナーを通じていろいろな事を学習してください。

さて、ロータリーが、青少年のみなさま方を対象にした奉仕プログラムの一環として、ローターアクトクラブというものを作り、後援しております。私はそのローターアクトクラブを担当しております 2660 地区の委員長です。この 2660 地区と申しますのは、大和川より北側の大阪府全域を指します。

ローターアクトクラブは、本日のライラに参加していただいております同じ年齢の 18 才～30 才までの青年男女を対象にしたプログラムで、当 2660 地区には 23 クラブ・約 300 人の会員が活動をしております。

では、何をしているのかと申しますと毎月 2 回、1 時間 30 分の例会というものを開催して、いろいろなことを話し合ったり、講師の方に来ていただいて講演を聞いたり、又ゲーム感覚でいろいろな勉強をしています。ただ一般のサークル活動と違う点はロータリークラブと同じように、「奉仕活動」を通じて友情を深めていこうというのが大きな目的です。

簡単に言えば、これからの 3 日間みなさま方は、講演を聞いたり、グループで討議をして発表をしたりしながら、リーダーシップについて学習されると思います。

クラブによって様々ですが、施設の子供たちとのふれあいハイキング・盲学校の生徒さんのための点字の地図づくり・絵本の朗読、又、野外でのバーベキュー・お花見例会・一泊研修・海外研修等の活動をそれぞれのクラブごとに奉仕活動と親睦活動をうまくミックスさせながら、自分たちがたてた目標を年間テーマに活動するのがローターアクトクラブです。

今回の秋のライラにもローターアクトの多くの仲間が参加しています。3 日間の間にはみなさま方とおそらく話をする機会も多くあると思います。ローターアクトにも地区の役員がおりまして、リーダー的な役割を果たしております。

少しPRのお時間をいただきましたので、後ほどこの3日間の間に、彼らが普段活動しております内容をもっとわかりやすく説明してくれそうですので、ローターアクトクラブとはこんなものとおわかりいただけるものと思います。

今回の秋のライラで研修されたことをもう一歩進めて、ローターアクトクラブに入会してみようと思われた方は、たくさんの仲間が待っていますので、ご推薦いただいたロータークラブを通じて連絡をいただくか、本日参加しておりますローターアクトのメンバーに一声かけていただければ、お近くのクラブにご案内をさせていただきます。

最後になりましたが、北山青少年活動委員長様ならびに今回のホストをしていただいております大阪堂島ロータークラブの皆様には、貴重なお時間を拝借いたしましてローターアクトのPRをさせていただいたことを感謝申し上げます、私の挨拶とさせていただきます。

2003 年秋のライラ 初級

研修プログラムタイムスケジュール

日 時	第 1 日目 9/13 (土)	第 2 日目 9/14 (日)	第 3 日目 9/15 (月・祝)	時
6:00		起床・体操・掃除	起床・体操・掃除	6:00
7:00		朝食 (レストランにて)	朝食 (レストランにて)	7:00
8:30		前日の振り返り 【講義・実習】	【インバスケ発表大会】	8:30
9:00		①人間関係とコミュニケーション ・コミュニケーションの障害 ・よりよい人間関係を築くには	全体発表 ↓ 講師による解説	9:00
10:00		②傾聴の重要性 ・傾聴の基本 ・アイスブレイキング ・聴き方実習	【まとめ】 ・今後のキャリア形成と能力開発 ・質疑応答	10:00
11:00		【講義・診断】	終了レポート作成 ユース代表による感想発表	11:00
12:00	----- 集合・登録・受付	①リーダーシップとコミュニケーション ・リーダーに期待される能力		12:00
13:00	開講式 13:00～13:30	昼食 (弁当・野外にて)	閉講式 懇親パーティ	13:00
14:00	『基調講演』13:30～14:30 ・リーダーとしてのキャリア向上を目指す	・リーダーシップとは何か ・職場のコミュニケーション ・効果的なリーダーシップの発揮		14:00
	【写真撮影】14:10 から 14:30 <休憩・部屋割と荷物移動>	②ヤル気を起こさせる後輩指導 ・動機づけのポイント		
	・オリエンテーション ・自己紹介(ストローク交換会)	【講義・グループ演習】		
15:00	【講義・二方通行】	③インバスケ演習 ～業務処理能力を高める演習～		15:00
16:00	①働く目的 ②経営を取り巻く環境の変化 ③今、企業が求める人材	【計算力、問題分析力、状況判断力を高める リーダーとしての役割をふまえた仕事の進め方		16:00
	【講義・グループ討議】	インバスケ個人作業 ↓ インバスケグループ作業		
17:00	④成果を求められる時代へ ⑤リーダーとして成果を上げるには ・会社の理念・方針を理解			17:00
18:00	⑥コミュニケーション能力の向上			18:00
	夕食 (レストランにて)	夕食 (レストランにて)	グループ写真撮影 グループ毎に随時撮影	18:00
19:30		発表大会準備		19:30
20:00	【体験学習】 コミュニケーションゲーム実施	グループ作業のまとめ		20:00
21:00	グループにてフィードバック	↓		21:00

* 講師担当 株式会社シーエムオー 川崎桂子 基調講演及び9/13(土)～9/14(日) AM11:00 担当

株式会社タクト&アクト 青木テル 9/14(日) AM11:00～9/15(月) 12:00 担当

* 開講式、閉講式、講演、講義等は全て多目的ホールにて実施

懇親パーティーはロビーとホールを使用

* 初日チェックインまでの } 荷物置場は2F研修室Aを使用
3日目のチェックアウト後の }

講 師 紹 介

講師：株式会社シーエムオー 専務取締役 川崎桂子

I. 『 基 調 講 演 』

リーダーとしてのキャリア向上を目指す

II. 『 講義、グループ討議、体験学習、実習 』

働 く 目 的 と は

経営を取り巻く環境の変化

今、企業が求める人材とは

経 営 と は

コミュニケーション能力の向上

講師略歴 ; 1974年、神戸松蔭短期大学英文科卒業。

同年日本生命保険相互会社入社。1980年退社後、教育コンサルタントとして活動を展開する。この間タクト&アクトのグループに加わり、各種の教育研修を担当する。その後、㈱日本経営にて教育研修部長として活動する。

現在、㈱シーエムオーの専務取締役として中堅企業の研修指導(約200社)、大学病院・私立病院・老人福祉施設・クリニック等の教育研修指導を行い、又、UFJ総研講師・全国商工会議所講師を歴任している。

講 師 紹 介

講師：株式会社タクト&アクト 代表取締役 青木テル

『 講 義 、 グ ル ー プ 演 習 』

リーダーシップとコミュニケーション

求められる能力
リーダーシップとは
効果的なコミュニケーション
報・連・相のタイミング

やる気を起こさせる後輩指導

啓発的な教え方
指導のステップ
やる気にさせるほめ方・注意のしかた

インバスケット演習

インバスケット演習<ガイド>
インバスケット討議（IB/GD）の進め方

今後のキャリア形成と能力開発

自己啓発計画

講師略歴 ; 1960年 新潟大学教育学部卒業
1989年 おふいすタクトアンドアクト主宰
現在 株式会社タクトアンドアクト 代表取締役
東京オプトメトリックカレッジ 非常勤講師
産業カウンセラー、キャリア・コンサルタント

グループ報告

★グループ No. 1 黒田 直人



今回の研修を通じて、自分にとっての常識が如何に一人よがりであったかという事を学びとることが出来ました。人の話を聞くにしても、自分がわかっている事を相手が話始めるとすぐに「ハイ、ハイ、ハイ...その件ね。わかっている、わかっている」といった具合に、相手の話を打ち切るという言動をよくしていました。

しかし、それがいかに相手に不快感を与えているかということや自分に話をする事自体いやになるという事を体験することができました。相づちをうつことやうなづくことは、従来からやっていますが、

それに加え、相手の言動を正確に繰り返すことや要約することを、そして、表情を豊かに使いわけることにより、相手からの信頼感や本音を引き出すことができるということを学ぶことができました。

あとは実践です。「学んで行わざるは...」という言葉にもありますように、「良かった、良かった...」だけで終わらない研修にしたいと思います。今回、こういう機会を与えて頂き有難うございました

★グループ No. 2 浮城 隆

私は会社内でチーフ（主任クラス）という立場にあります。上司も部下もいる立場です。日頃、業績の向上、業務の効率化を考えてはいますが最終的に目標は達成されていません。それは「上司が言ってからやればよい。」「部下がやらないのだからしょうがない。」と思うからです。今回の研修を通じて、あいさつ・笑顔にはじまるコミュニケーションを誰に対しても積極的にとっていこうと思いました。そして、自ら進んでリーダーシップをとっていこうと思いました（今までリーダーとリーダーシップを混同して



いたため越権行為にならないかを心配していた面もありました）。この場に参加する機会を与えていただいた当社茅野社長と堂島ロータリークラブ、2660地区の皆さん、講師、アシスタントの方々、そしておかげさまで楽しく参加することができた他の参加者の皆様に心より深く深く感謝致します。

さっそく自ら実践するとともに、多くのこの場に参加できなかった方にも伝えていくよう努力していきたいと思ひます。ありがとうございました。

★グループ No. 3
石川 英寛



私が今回の研修で最も勉強になったのは、上司・部下に役割を決めてのコミュニケーションゲームでした。あのゲームのポイントは上司は部下が目的を理解していると思い込んでいる点でした。しかし実は部下は目的を理解していないのが現実でした。こういった時、今までの私なら上司の責任だと思うだけだったと思いますが、今回の研修で部下からも上司に働きかける重要性を学びました。上司は意外に部下からの働きかけや、現状の報告がないと動けない孤独な役目だと実感しましたし、部下からの働きかけが

あると非常に仕事がしやすく助かることもわかりました。普段、職場で上司が「今何をやっているのか」とよく聞いてくるのですが、その上司の気持ちが今回の研修で理解できましたので、明日からはこちらから報告をよくしていくようにしたいと思います。又、グループのインバスケット研修を通して、仕事のやり方はいろいろあるということや、自分が今までしていたやり方が、いかにだらしがないことかを実感できたとともに、仕事とはいかに面白いものかと思いました。有難うございました。

★グループ No. 4
菅沼 史恵

「あなたは輝いていますか？」と青木テル先生に問い掛けられた時、私は自信を持って「はい！輝いています！」と胸を張って答えられない自分がいました。それは、人生において“主役は自分”ということのを忘れ去っていたからです。日頃の生活の中で、消極的になっていた自分に改革をおこすきっかけになったこのライラ、社会に出て6ヶ月目の私にチャンスを与えて下さった上司を始め皆様に深く感謝しています。

この三日間を通じて、多種多様な職業を持ったリーダーと出会い、コミュニケーションを図り、

一つの目標にグループで挑戦していくことにより、一人の視点（考え）で仕事を処理するのではなく、グループメンバー全員の視点を集めることによって、より良い策で仕事を進めていくこと、そして、後輩でもリーダーシップを状況によっては発揮でき仕事が潤滑にいくこと、仕事はマニュアル通りだけでなくプラスαさらに奉仕の精神と思いやりによって成し遂げること、など、この他にもこの紙面に書き表せないぐらい学ぶことができました。

これから、生涯神職をしていく上での視野が広がりました。次回受ける際は、胸を張って「輝いています！」といえる人生をこれから築いていきたいと考えています。



★グループ No. 5
英 圭



今回のライラではひじょうに多くの事を学ぶことが出来ました。たとえば、・・・・・・・・・・
そうですね。今までによく疑問に思っていたことがありました。あいさつしても無視する人、すれ違ふとき素通りする人、コミュニケーションをとろうとしない人。こういう人達ってすごく嫌な感じがするけれど社会的にこの現象を表現する言葉ってあるのかなあと思っていました。これを「負のストローク」と人は認識していると知って、やはり「互いに無視しあうことは良くないこと」というのは証明されていたんだと知り

りました。普段、「無視は良くないこと、罰すべきこと」と考える人はいなかったもので、理不尽だと思っていたのですが、それがすっきりしました。何の話でしたっけ？ そうそう、学習したことですよね。今も申しました通り、ストロークの概念、情報の共有の大切さ、その為の信頼関係、コミュニケーションの大切さ、部下（身の回りの人）の誉めかた、叱りかた、相手を中心に話を進める方法、グループに属する各人がリーダーシップをとること（リーダーシップをとる人はグループ内で一人だと思っていました）、報連相の効用、社会人の礼節、自分が大衆の中に紛れてはいけないということ、そして常に輝いている自分でいよう、ということ。えらい長い文になってしまいましたが、箇条書きにただけでもこれだけあります。

再び日常に戻った後、友人達やまだ見知らぬ未来の人たちとプラスのストロークによってもっともっと良い関係を築き、輝ける自分でありたいと思います。

★グループ No. 6
上田 武志

正直言って、私は人と話す事が苦手です。仕事も一人単独の作業的な仕事が多いのです。肩書きは株式会社の会社員、主任という役職です。そういった役職でありながら、中間管理職のような苦痛もありませんし、上からの重圧、下からの突き上げといったものもありません。それはなぜか？ 人とコミュニケーションを取らないからです。自社の現場での作業は一日のノルマのクリアを目指して動いていきます。一人で単独でノルマを達成しなければ周りに影響するのです。しかし、そこにコミュニケーションはありません。一人がノルマを消化してそれで終了だからです。やっとここにきた意味を痛感したのは、ロッジで部屋の仲間と話した時でした。人と話すって悪いもんじゃないなと思いました。職場では無口で通っていますが、これからは積極的に部下、後輩、上司とはなしていきたいと思います。

明日から仕事です。今日のあいつは明るいな、変わったなと言われるように、がんばっていきなさいと思います。



★グループ No. 7
田中 孝治



この研修について、最初は高校生二人だけで周りは全て大学生か社会人なのでついていけるかがとても不安だった。そして講義も今の段階ではよくわからない事が多かった。しかし、コミュニケーションやリーダーシップのことなど講義を聞いているうちに「なるほどな」とか「あー、そーやな」とか共感し理解ができてきました。まだ僕は高校生なので会社での事務の仕事とかは戸惑い全然出来ませんでした。チームに分かれてやっていたので社会人の方の説明で納得し理解ができてきました。今まで社会人の

方々とあまりふれあう機会がなかったので今回の研修でとても社会や会社の事が勉強になったと思います。そして僕はあまり人付き合いとかも得意な方ではなく、どちらかというと自分の部屋にとじこもっているような人間なので、今回は大変良い機会であったとともにとても勉強になったと感じています。また、上司と部下の関係は僕の立場からいうと部活の先輩、後輩にあたると思います。それだけに上級生としてどのように後輩に接して、注意したり誉めたりするかその時の参考になりました。わずか三日間だけの短い研修でしたがとても自分自身のためになり参加してよかったと思います。

★グループ No. 8
松嶋 玲子

まず第1に、社会人の方の“発想”を身近に感じることができたことに、とても感謝しています。来年から社会人になるのですが、些細なことにも自分自身の発想がまだまだあまいなあと改めて考えさせられる良い機会を頂きました。体育会ヨット部での経験を社会で活かす道筋を教えて頂いたように思います。重要である“情報の共有化”“多様な意見の確保”のためにも、話し合うことの最重要性をゲーム等を通じて実感しました。やはり、いくら言葉でわかっているでも実際行うことができなければ“無意味”だということです。そして今回、積極的な姿勢というものを私自身に思い出させ、思い起こさせて頂きました。学生という身分に甘え、“辛く、しんどい事を避けている”今日の私に、積極的に行動し、そうすることで多くの発見、成長を得る事ができるということ、参加された方の助けを借りながら、再認識できたことにとても感謝しています。このような機会を与えて頂きありがとうございました。



★グループ No. 9
谷 峰範



私は今年で学生生活7年目を迎えました。自身も来春からは新社会人として働くという事、それとともに今までの人生経験から自分という人間は社会に出てから十分に通用すると思っていました。今回の研修ではそんな自分の考えを改めることがありました。例えば、ケーススタディの論議中では、役員、部署間の位置づけがはっきりと把握できていませんでしたし、初対面の人達を相手に自分を表現するのに時間がかかりました。こうした経験から自分をもっともっと成長の余地があると感じました。自分では冷静に

判断できる人間だと思っていた自分を、より広い世界でいろいろな人に触れて、そこから学び吸収したい、そう思える自分に満足しています。たった一回の研修参加で自分が大きく変わると思いませんが、自分に足りない部分に気づいただけでも今回の参加は有意義なものだったと思います。

★グループ No. 10
浜本 憲吾

今回の秋のライラで、僕が一番考えさせられたのは「コミュニケーション能力」ということでした。僕はフリーターと社会人の間の立場にいます。学校にいる時間よりも仕事をしている時間の方が長いためです。その仕事の内容は子供たちに水泳を教えるという単純なものだけれども、単純だからこそ難しいところが多いような気がします。僕の仕事では上司と部下のコミュニケーションはもちろんのこと、子供とのコミュニケーションを大切にしないと



いけません。大人とでも、子供とでも、コミュニケーションの基本的な取り方は同じだと思います。それと子供と接していて最も重要なのが「しかる」ということです。子供に、きちんと正しく、愛情をもってしかる方法も学びました。

またべつの話になりますが、僕は個人的にいろいろな所でイベントを企画しています。その中で毎回、僕一人忙しく働いていた気がします。一人でたくさんのスタッフを動かすのはとても大変です。でも実際にそうするのではなく、コミュニケーションをうまくとり、それぞれがリーダーシップを取っていた頂けるように働きかけていきたいと思っています。今回とても勉強になりました。



朝の体操

～海辺にて～

ああ、ねむい・・・
でも気持ち良い

研 修 風 景







2003 年秋のライラ 上級

研修プログラムタイムスケジュール

日 時	第 1 日目 9/13 (土)	第 2 日目 9/14 (日)	第 3 日目 9/15 (月・祝)
6:00			6:00
7:00		起床(6:30) 洗面・身辺清掃	起床(6:30) 洗面・身辺清掃 テント撤収
8:00		朝食(レストラン)	朝食(レストラン)
9:00			
10:00	集合(府立青少年会館) 開会式	ASE体験 講師:財団スタッフ スパイダーネット エレクトリックフェンス ラインナップ 他	新規ASE体験 指導体験
11:00	ワイドオリエンテーリング 課題設定、安全確認 スタート (グループで15分毎)		振返り
12:00	チェックポイントで昼食	昼食(レストラン)	閉講式 昼食(パーティーに参加)
13:00		講義「ASEの理論」 新規ASE開発について 場所:2F研修室A 講師:長谷川 徹	13:00
14:00		※ASEのコンセプト ※リスクへの対処 ※開発に際して ワークショップ「新規ASE開発」 場所:2F研修室A	14:00
15:00	チェックポイントで捕食		15:00
16:00			16:00
17:00		夕食準備	17:00
18:00		夕食(野外すいさん)	18:00
19:00	ゴール予定時間	後片付け	19:00
20:00	夕食(ロッジ舞洲のレストラン)	「新規ASE開発」 プレゼンテーション 場所:2F研修室A	20:00
21:00	テント設営、宿泊準備 入浴		21:00
22:00	振返り ロータリアンと親睦会 進行:財団スタッフ 場所は野外、もしくは2F研修室A	講義 「課題解決のリーダーシップ」 講師:堂島ロータリークラブ 場所:2F研修室A	22:00
		入浴	
	終了	終了	

歓迎の挨拶

(上 級 ラ イ ラ)

大阪堂島ロータリークラブ
会 長 川本 幹治

皆様こんにちは！秋のライラホストクラブ、大阪堂島ロータリークラブ会長の川本でございます。本日は国際ロータリー第2660地区の若林紀男ガバナーをはじめ、ご来賓の皆様、関係者の皆様、大変お忙しい所を上級ライラの開講式にご参加下され誠に有難うございます。又、上級ライラを受講されます研修生の皆様、本当によくおこし下さいました。

皆様方は去る8月30日に行れましたプレキャンプに引き続き、本日より2泊3日の研修に参加いただく事になっておりますが、研修内容につきましては大阪府青少年活動財団の酒井洋幸部長をはじめ、スタッフの皆様方に基本的に企画していただき、又ご指導もいただく事になっております。是非今回のプログラムによりリーダーシップとメンバーシップを学んでいただき、「真のリーダーとは」を皆様方が自ら考えていただきたく存じます。

私達、大阪堂島ロータリークラブでは、地区青少年活動委員会の北山委員長、泉上級ライラ実行委員長の助言のもとに、若い人達を上から指導するという姿勢ではなく、ともに共感しあうという方針で、この1年間ライラ実行委員会を中心に準備してまいりました。13・14日の夜には私達ロータリアンとの懇親会・座談会を準備しております。本音で話し合える事を期待しております。

どうか、今回の上級ライラに参加いただきました皆様方が近い将来、青少年の指導者になられ、地域社会や国際社会において、ご活躍されます事を心から祈念致しまして、上級ライラ歓迎のご挨拶とさせていただきます。

上級RYLA開講式挨拶

国際ロータリー第 2660 地区

青少年活動委員会

委員長 北山 孝和

皆さんお早う御座います。ただ今ご紹介いただきました、青少年活動委員長の北山です。

本日は早朝より上級RYLAに参加いただきまして有り難うございます。

皆様方を委員長と致しまして歓迎いたします。

皆様には8月の30日に、この場所に於いて、プレキャンプを受講していただきました。本日より3日間いよいよ本番がやってまいりました。プレキャンプでロータリーのこと、プログラムの事もご理解いただいたと思います。本日よりの3日間を皆様方にとりまして有意義な3日間にしていただきたいと思います。上級ライラが、終われば皆様方を送り出してくれたロータリークラブで必ずお話をつまり卓話をお願いいたします。そしてRYLAを受講しての感想をロータリアンにしっかりお伝え下さい。そして来年5月に舞洲で、行われる世界RYLA大会に出ていただきたいと思います。宜しくお願いいたします。

明日は舞洲においてNHKが、取材に来ていただけます。主に上級RYLAを取り上げていただくようにしております。皆様方も張り切って頑張ってください。

又、大阪府青少年財団の先生方には大変お世話になります。どうか3日間宜しくお願いいたします。そして、ホストクラブの北RYLA実行委員長、水山上級RYLA実行委員長様、を初めメンバーの皆様、本日までの準備ご苦労様でした。心より感謝申し上げます。又、上級RYLAをサポートしてくれます、上級RYLA修了生のチームライラの皆さん宜しくお願いいたします。最後に参加いただきましたロータリアンの皆様に感謝申し上げ委員長の挨拶とさせていただきます。

上級ライラ



1日目

24kmの行程、
お疲れさまでした！

ワイドオリエンテーリング

府立青少年会館（森の宮） 11:00 から班別に
15分毎スタート

A班 18:00 舞洲到着

- ・河田 恵 樹
- ・植松 みどり
- ・西村 信 一

B班 18:13 舞洲到着

- ・川崎 夏 葉
- ・森口 公 雄
- ・大志万 泰 範

C班 18:17 舞洲到着

- ・柳 偉 達
- ・檜皮 泰 弘
- ・菅原 小理恵



ロータリアンと共に



初級・上級ライラ 閉講式

式 次 第

司 会 竹 田 秀 道

- | | |
|---------------|---|
| 1. 開 会 の 点 鐘 | 大阪堂島ロータリークラブ
会 長 川 本 幹 治 |
| 2. ご挨拶と修了書の授与 | 国際ロータリー第 2660 地区
ガバナーエレクト
宮 田 宏 章 |
| 3. 上級ライラ受講者挨拶 | 菅 原 小理恵 |
| 4. 講 評 | 国際ロータリー第 2660 地区
青少年活動委員会
委員長 北 山 孝 和 |
| 5. ライラ旗の引継 | 豊中千里ロータリークラブ
会 長 高 橋 貞 夫 |
| 6. 閉 会 の 辞 | 大阪堂島ロータリークラブ
ライラ実行委員長
北 研 次 |
| 8. 閉 会 の 点 鐘 | 大阪堂島ロータリークラブ
会 長 川 本 幹 治 |

上級ライラ受講者挨拶

2003年9月15日

菅原 小理恵



上級ライラの閉講式の挨拶をする様先程決まったのですが、プログラム中で課題に取り組んでいた為原稿無しでの生の声を聞いて下さい。

今回上級受講が決まったのは、前回同様自ら志願した訳ではなく、初級受講を社長より勧められ参加した為、機械的に手続きされました。

バックグラウンドの違う方々との少数団体生活への不安、初級より一步ステップアップしたプログラムに自発的に参加を求められるプレッシャー等、普段の生活に無い経験をさせて頂きました。3日間でASE（行動社会化経験プログラム）を体験し自ら作成しました。内容は24キロに及ぶウォークラリー体験や、いかに早く皆でボールを回すか等簡単なゲームを通じて、目前の課題の難易度と取り組む人数による自分の役割、難易度と達成感の深い関係、同じ課題に取り組む人との信頼感等々体験し、最後に自ら出題用のゲーム作成し発表する事でした。

思えば24キロ完歩出来るかどうか緊張しつつ、参加するからには新しい自分を見つけようと思った、出発前夜のなかば諦めも遠い昔に感じられます。ただ全てが本当に楽しく、ありのままの自分で参加してしまい、今はただ「楽しかった」の一言に尽きます。

終わって充実感に浸っているだけなのですが、これから少しずつ思い出が形となって身に付き、何かしらの機会で役立つよう願っています。

最後になりましたが、ホストクラブの堂島ロータリークラブの方々、全てのロータリアンの方々、青少年活動委員会の方々、スタッフの皆様、私の参加に携わって下さった皆様、本当に有難うございました。全プログラムを無事に終えられたのも皆様のおかげです。貴重な体験が出来ました。

められる。リーダーシップとコミュニ

主催：国際ロータリークラブ



国際ロータリー2660 地区
青少年活動委員会
委員長 北山 孝和

皆様、2泊3日 お疲れさまでした。この3日間無事、有意義に秋のライラを終了することが出来ました。これもホストクラブを務めていただいた大阪堂島ロータリー

クラブの皆様のライラへの努力が身を結んだ結果だと思えます。3日間を通じてこの様に青少年が勉学に励む姿を見て、遠い昔を思い出しました。

無事に全日程を終了することが出来ました事を委員長と致しまして感謝申し上げます。3日間を通して青少年の皆様が、テーマに沿って色々なことを学ばれた事と思えます。

開講式でも申しましたように、21世紀を担う皆様にこのテーマを理解していただき明日より生活の場で生かして頂きたいと思えます。

この3日間を振り返りますと、初日の「リーダーとしてのキャリア向上を目指す」の基調講演も我々ロータリアンも常に勉強、努力を怠るなど叱咤激励をされているのだと感じました。またグループ討議、グループワークを真剣に実習していただきました。

2日目の人間関係とコミュニケーション、傾聴の重要性にも我々ロータリアンがハッとするようなことが有り、非常に為になったと思えます。

3日目はインバスケ発表大会とあつというまの3日間でした。

今回初級ライラを受講していただきましたが、もう少し内容の濃い上級ライラもこの来年5月に大阪の淡輪の大阪府立海洋センターにて実施いたします。ご参加下さい。

開講式にもローターアクトクラブのお話をさせていただきましたが、今回のライラにも多くのローターアクターに参加して貰っています。是非皆様方の入会を希望しております。歓迎致します。

ロータリークラブは、この様な奉仕活動を全世界において行っております。この事はライラセミナーを通じて理解していただいたことと思えます。

最後になりましたが、今回のライラホストクラブ、川本会長、北実行委員長を初め会員の皆様、上級ライラ修了生の皆様、大阪府青少年財団の先生方、スタッフの皆様、そして参加いただきましたロータリアンの皆様、ご協力本当に有り難う御座いました。感謝申し上げます。

以上をもちまして講評といたします。

閉講のご挨拶

国際ロータリー第 2660 地区
ガバナー・エレクト
宮田 宏章

2003 年～2004 年の秋のライラが 3 日間開催されましたが、皆様の熱意に負けて台風も大阪を避けて逃げて行ってしまった感があります。

今回のスケジュールは上級と初級の 2 つに分かれ、上級の初日と 2 日目は主に屋外で汗を流しながらの体験をつまみ、肌も黒く焼けて頼もしい気が致しました。

初級は 18 歳の高校生もおられました。主に屋内での講義・実習・討論とぎっしりと詰まった 2 日間であり、3 日目は今まで学校や会社等ではあまり経験したことのないケーススタディー（インバスケット）の体験をしていただきました。

私達ロータリーはライラ等のプログラムを通じて『青少年の育成』を大きな目的の 1 つとしております。

最近の新聞には青少年の犯罪が多く掲載され暗い感じでしたが、私はこの 3 日間の皆様方の積極的な活動をつぶさに見て、日本の将来は明るいものがあると大いなる期待を持つことが出来ました。3 日間本当にご苦労様でございました。

最後に第 2660 地区の青少年活動委員会の皆様、ホストをして頂いた堂島 RC の皆様には、準備の為のご苦労と開催中の心労に対して心より感謝申し上げ閉講の挨拶と致します。



閉会の辞



2003～2004年

2660地区「秋のライラ」実行委員会
委員長 北 研次
(大阪堂島ロータリークラブ)

「秋のライラ」初級・上級受講生のみなさん、この3日間はいかがでしたか。それぞれに深い感動があったものとお見受けし

ております。職場においても、また学窓においても皆さんは華であり、宝であります。この3日間で得たものを明日からの生活の場で更に有効に活かして下さい。日本の国は只今世界の中でやや低迷しておりますが、私は決して心配しておりません。

何故ならば、この3日間を共に研鑽に励まれた皆さんのように若さと真摯な生き方で職場において学問の場において努力しておられる新世代のみなさんが沢山おられるからであります。そしてそのパワーに期待が集まってきております。みなさんはこれからも世界中に出駆けて行って世界をリードしていただきたいと心から念願しております。コミュニケーションを大切に、リーダーシップを大いに発揮していただきたいのであります。

さて、私達大阪堂島ロータリーの会員全員が1年間に亘り、準備のために微力を注いで参りましたが、この3日間みなさんにご満足いただけましたでしょうか。

私達なりに反省もし、次のよりよい「ライラ」の一助になればと願っております。

尚、ここで一つ報告を申し上げたいと存じます。お蔭様で第2660地区全クラブより登録をいただきました。心より感謝しております。これはまさに快挙であります。

ここで更めて、私達にホストをおまかせいただきました国際ロータリー当地区ガバナーをはじめ、地区青少年活動委員会委員長はじめ、委員の皆さんに謝意を表したいと存じます。

そして大阪府青少年活動財団の方々、大変有難うございました。更に今回のライラのメインでありました「研修」をご担当いただきました諸先生、スタッフのみなさんには大変お世話になりました。ここで全員のご賛同をいただき、心からなる感謝の拍手をお贈りしたいと思います。拍手！！

以上をもちまして「閉会の辞」とさせていただきます。大変有難うございました。

研 修 所 感

2003 年秋のライラ 初級



株式会社シーエムオー
専務取締役 川崎 桂子

2003 年「秋のライラ（初級）」研修の企画からプロデュース、研修講師までお手伝いできたことを深く感謝申し上げます。

2泊3日の研修のねらいの1つは個人のキャリア形成の向上にありました。参加者一人一人が自立し、キャリア形成、開発を

するための気づきを深め、やる気を促し、実践行動へとつなげていくことです。エンプロイアビリティという言葉（雇用されうる人材、能力という意味）を紹介いたしました。

既に企業が一生雇用し続けるという終身雇用制は力を失っています。雇用されうる人材かどうか問われるのです。その為に自立型のキャリア形成の大切さを基調講演させていただきました。

研修のねらいの2つ目にコミュニケーション能力の向上及びリーダーシップ力の発揮をねらいとする研修プログラムを実施いたしました。研修全体の流れは単なる座学ではなく参加型の研修であり、キャリアシートの作成、コミュニケーションゲーム、インバスケット演習、グループ討議、発表会と参加メンバーとの共同の中で進行了ました。

参加者のアンケート用紙の分析によると

『秋のライラに参加した印象』について

a 非常に良かった	53.6%
b 良かった	34.8%
c 普通	10.1%
d 参加しない方が良かった	0%
e 未回答	1.5%

で参加者の満足度は非常に高いものとなっています。

『良かったプログラムは』

● コミュニケーション	36.2%
● インバスケット	16.3%
● 傾聴	5.0%
● ストローク	2.5%
● リーダー	2.5%
● その他	28.7%
● 未回答	8.8%

コミュニケーションについての感想が特に評価が高いものとなっています。如何に一人一人がコミュニケーションの深さを求め、自分をよく知り、他人を理解したい気持ちを持っているか痛感させられます。

『悪かったプログラムは』

● ラジオ体操	4.3%
● 自由時間ほしい	4.3%
● 食事時間が長い	5.8%
● 講義時間が長い	5.8%
● インバスケッ	7.2%
● その他	13.2%
● 未回答	59.4%

悪かった点については非常に少ないですが、インバスケットの内容についても指摘がありました。実際の仕事とあまり関係がないという意見と同時に他の人の考え方の違いや自分が気づかなかった点に他の人が多く気づいており、大変学習できたというものです。

又、朝の起床時間（早い）やラジオ体操への不満がありました。この点は参加者に「参加させられている」との意識の表れで、今後の進め方として、朝の大切さを教える必要があると思います。

参加者の研修レポートは実に熱心に記入されています。問題点としては誤字、脱字が見受けられ、字の乱雑さです。若い人の言語感覚と従来の日本語感覚とのギャップが生じていること、字を書く機会が少なくなっていることの表れでしょうか。今後の研修課題です。

研修レポートの感想は「キャリア形成の大切さの気づきが深まった」「自分を見つめ直すことができた」ことを取り上げている人が多く見受けられます。そして「よし頑張るぞ」と気持ちをかき立てた人も多く、私としては読んでいて励まされ、心強く感じました。

70名のレポートから一人一人の顔や表情がよみがえり一人一人の必死の息づかいを感じることができます。

学生の参加者、職場のリーダーと様々な立場の人がほぼ共通してコミュニケーションの大切さ、リーダーシップの重要性、キャリア形成の重要性を実感している様子が伝わってまいりました。

日本の未来は大丈夫、このような若者がいる限り心配はないと感じることができました。

このような異業種を対象としたライラ研修の意義は大きいものがあります。一年前からロータリークラブのメンバーの方々が、知恵を絞り、企画から準備、研修後のフォローまで大変な時間をかけ、正にロータリークラブの奉仕の精神そのものです。私自身も一年近く委員会に参画し、ロータリアンの方々のリーダーシップ力を目の当たりにし、勉強させていただきました。深く敬意を表し、感謝申し上げます。

ロータリークラブの関係者、ロッジ舞洲のスタッフの皆様に研修のすばらしい環境をつくっていただき、ご配慮いただきましたことを御礼申し上げます。

以上

研 修 所 感

2003 年秋のライラ 初級



株式会社タクト&アクト
代表取締役 青木テル

研修参加者の第一印象は、“集団の中でのマナーが身につけていない人”でした。大きな口を開けてあくびをする人、手ぬぐいをかぶっている人、帽子をかぶっている人、椅子に大またを開いて寄りかかっている人、時間管理がルーズな人……等、野外活動の集いに参加しているような雰囲気には驚きました。しかし、研修が進むにつれて次第に前向きに、素直に参加している姿勢が見えてき、頼もしく好感が持てました。

“インバスケット演習”とは未決箱に入っている未処理案件を問題解決しながら処理し、既決箱に移すという演習です。（課長が出張中・係長が入院中という状況の中で、先輩の立場で後輩の協力を得ながら、かつ後輩の指導をしながら業務をすすめるという前提）

- ・ まず個人で処理作業し、次にグループ討議（個人で処理した案件をグループ全員の知恵を出し合い、検討する）、結果を模造紙に書く
- ・ 全体発表では、全員が各自担当の案件を全員の前で発表するというステップ学習で進めました。

発表から

- ・ 上司に対する報告がまめに出来ていたグループ
- ・ 緊急度・重要度を考えて仕事を計画的にすすめていたグループ
- ・ 周囲の人に対する気配りができていたグループ
- ・ 後輩に仕事を頼むときの配慮はできていたグループ
- ・ 課長が留守の場合や緊急時、誰に報告すべきか
- ・ 他部署との協力意識がみられたか
- ・ リーダーとしてやるべきことを考えて処理したか

など、各グループにより気づきの違いがみられ、各自学ぶ点が多かったものと思われます。

参加者の中に学生の方が数名いらっしゃいました。大学生の参加者には、大学でも家庭でも応用できる案件であったと思われますが、高校生の参加者には少し難しかったかも知れません。

インバスケット演習で勉強になる点は、自分ではこれが最高と思われる処理の仕方が、グループ討議で他の方の意見を聞いてみると、更に良い気づきの方がいる、全体発表ではまた更に…、と驚くとともに

- ・ 人の意見は聞いてみるもの
- ・ 上司から頼りにされる部下となるためにはどのようにすればよいか
- ・ 効率的な仕事の進め方とは

など、反省した方、自信を持った方さまざまだったと思われます。総じて、文章からの要点把握が苦手な方が見受けられました。パソコンの時代になればなるほど短時間で文章からの要点把握は求められます。日常生活から文字に親しむ必要性を感じました。しかしながら全員の前で堂々と発表する口頭表現力は高く評価できます。いずれにしても自分の強み・弱みがわかり、今後の会社生活・社会生活に役立つことと思います。

“リーダーシップとコミュニケーション”ではリーダーとリーダーシップの違い、リーダーシップは下から上にも発揮できること、また効果的なリーダーシップを発揮するためにはコミュニケーションスキルが重要である、“後輩指導”ではどのような時に人はヤル気になるか、どのような先輩に教わりたいか、上手なほめ方・注意の仕方のコツなど実習を交えながらすすめました。

研修を通じて参加者から強く感じたことは、上司からほめられている方が殆どいなかったことです。上司はほめているつもりでも部下には伝わっていないということです。もっと部下の良い点を具体的に認めてあげてください。年齢に関係なく期待される・認められることがヤル気のパワーの源です。

研修が終わり、参加者のパワーがじわじわと押し寄せてくるように感じられました。全員で協力しながら、和気藹々と研修を終了できたことを参加者の皆様と企画運営をしてくださったロータリアンの皆様に心より御礼申し上げます。有難うございました。

以 上



2003年秋のライラ参加者一覧表

【上級ライラ参加者】

氏名	推薦クラブ	氏名	推薦クラブ
西村 信一	大阪東	大志万 泰範	大東中央
川崎 夏葉	大阪堂島	河田 恵樹	大阪住吉
檜皮 泰弘	大阪中央	菅原 小理恵	大阪船場
植松 みどり	大阪中央	柳 偉達	大阪堂島
森口 公雄	吹田東		

【初級ライラ参加者】

グループ No. 1

氏名	推薦クラブ	氏名	推薦クラブ
入江 康二	大阪堂島	西沢 良典	大阪堂島
濱田 健一郎	大阪堂島	西尾 和久	大阪ユニバーサルティ
佐原 一江	大阪北	渡辺 大介	大阪中之島
黒田 直人	大阪東	原田 伸也	大阪東淀
細川 晶弘	大阪堂島	宮井 恵巳子	大阪中央
荻野 智之	大阪堂島	浮城 隆	大阪堂島
岸野 裕士	大阪柏原	岸本 真由子	大阪堂島

グループ No. 2

グループ No. 3

氏名	推薦クラブ	氏名	推薦クラブ
石川 英寛	大阪東	竹中 崇博	東大阪東
下田 智子	大阪堂島	渡辺 学	大阪堂島
神山 幸子	大阪ユニバーサルティ	浅野 由倫	大阪東
長岡 竜二	大阪堂島	菅沼 史恵	大阪南
長谷川 晋理	大阪大手前	辻本 雄紀	大阪堂島
向井 洋祐	大阪阿倍野	西田 賢一郎	大阪堂島
白川 隆之	大阪堂島	北田 慶子	大阪東

グループ No. 4

グループ No. 5

氏名	推薦クラブ	氏名	推薦クラブ
岩村 大地	大阪堂島	上田 武志	吹田西
吉田 こずえ	大阪住吉	福島 勝成	大阪ユニバーサルティ
英 圭	大阪北梅田	関 敦子	大阪なにわ
猪原 卓磨	大阪ユニバーサルティ	西田 典芳	大阪東淀
今坂 文昭	吹田西	笠置 貴幸	大阪中央
西田 みづ紀	大阪御堂筋	菅家 一貴	大阪中央
森 麻矢子	池田くれは	森下 徹	大阪堂島

グループ No. 6

グループ No. 7

氏名	推薦クラブ	氏名	推薦クラブ
永松 裕介	大阪堂島	川間 衛	大阪西
西田 昌弘	茨木	矢野 弘樹	大阪堂島
櫛田 華子	大阪阿倍野	廣川 昌平	大阪堂島
大西 良英	大阪天満橋	松嶋 玲子	大阪堂島
渡辺 悠太	大阪中之島	和田 貴美子	大阪堂島
朝比 豊	大阪アルト	木下 祐治	大阪堂島
田中 孝治	大阪堂島	荒木 宏志	大阪堂島

グループ No. 8

グループ No. 9

氏名	推薦クラブ	氏名	推薦クラブ
前田 勇人	大阪堂島	安本 雅子	大阪北
伏見 靖雄	大阪淀川	名村 文吾	大阪中央
松尾 知江子	大阪南	大西 鎮右	大阪堂島
谷 峰範	吹田	浜本 憲吾	茨木東
高木 英志	大阪堂島	佐々木 耕子	大阪堂島
葭矢 啓介	大阪堂島	加藤 愛子	大阪御堂筋
浜崎 杏美	大阪北	三好 崇央	茨木東

グループ No. 10

ライラ登録各R・C、青少年上級・初級

クラブ名	RC	初 級		上 級		クラブ名	RC	初 級		上 級	
		女	男	女	男			女	男	女	男
大阪ちゃやまち	30					大阪イブニング	1				
大阪中央	61	1	3	1	1	大阪城	1				
大阪北	155	3				大阪城南	1				
大阪北梅田	44		1			大阪城東	2				
大阪西	89		1			大阪柏原	2		1		
大阪大淀	57					大阪御堂筋	2	2			
大阪リバーサイド	34					大阪南	3	2			
大阪西北	57					大阪中之島	3		2		
大阪そねざき	58					大阪難波	3				
大阪梅田	57					大阪なにわ	3	1			
大阪梅田東	40					大阪南西	1				
大阪ユニバーサルティー	22	1	3			大阪大手前	1		1		
大阪堂島	43	4	24	1	1	大阪咲州	1				
大東	1					大阪西南	6				
大東中央	3				1	大阪船場	5			1	
東大阪	1					大阪心齋橋	3				
東大阪中央	2					大阪城北	2				
東大阪東	2		1			大阪住之江	2				
東大阪みどり	1					大阪住吉	2	1			1
東大阪西	4					大阪天満橋	4	1			
枚方	1					大阪天王寺	7				
枚方くずは	3					大阪東南	4				
茨木	3		1			大阪鶴見	1				
茨木東	2		2			大阪うつぼ	2				
茨木西	3					大阪淀川	6		1		
池田	3					千里	3				
池田くれは	3	1				千里メイプル	1				
門真	3					摂津	2				
交野	3					新大阪	3				
箕面	1					四条畷	3				
箕面中央	1					吹田	1		1		
守口	3					吹田江坂	1				
守口イブニング	3					吹田西	3		2		1
寝屋川	3					高槻	3				
寝屋川東	3					高槻東	3				
大阪	3					高槻西	3				
大阪阿倍野	1	1	1			豊中	3				
大阪フレンド	3		1			豊中南	2				
大阪阪南	2					豊中一大阪国際空港	1				
大阪東	3	2	2		1	豊中千里	10				
大阪東淀	3		2			八尾	4				
大阪平野	1					八尾中央	3				
大阪本町	3					八尾東	2				
小計	818	13	42	2	4	小計	119	7	8	1	2
						総合計	937	20	50	3	6

決算報告書【初級・上級】

	摘 要	初 級	上 級	合 計
収入の部	I M5組	2,456,000		2,456,000
	他R C	1,448,000		1,448,000
	受講生（初級72名、上級9名）	576,000	180,000	756,000
	地区より運営費	500,000	200,000	700,000
	ご厚志	10,000		10,000
	預金利息	6		6
	差引収入合計	4,990,006	380,000	5,370,006
支出の部	舞洲スポーツアイランド利用料	2,464,880	158,033	2,622,913
	㈱シーエムオー 研修費	1,417,500		1,417,500
	派遣職員謝礼		140,000	140,000
	軽食・飲料費	179,858		179,858
	傷害保険料	36,000	4,500	40,500
	閉講式 アトラクション	85,000		85,000
	文具消耗品	105,915	76,813	182,728
	パンフレット・案内状作成	66,150		66,150
	郵送料	150,591		150,591
	看板作成費	35,000		35,000
	会議費	29,431		29,431
	報告書・記録	344,072		344,072
	雑費	75,609	654	76,263
	支出合計	4,990,006	380,000	5,370,006
	収支差額	0	0	0

2003～2004 年秋のライラ実行委員会役割分担表

会 長	川本 幹治
幹 事	前川 久寿
実行委員長	北 研次
実行副委員長	片岡亥一郎
会 計	中野 和子

「総務部会」	川崎 全司	水山 章	横山 利夫	西尾 恒太
	宮坂 松央	廣瀬 幸雄	前田 勉	播磨 章一
	茅野 哲郎	西川 亨		

上級ライラ担当 水山 章

「登録受付部会」	福光 道太	佐藤太一郎	藤本眞一郎	堀内 敏道
	小川 道雄	堀 道晴	桑田 圭司	廣内 禎介
	中島 武			

「設営進行部会」	川村 俊明	竹田 秀道	梅本 弘	滝井 鎮
	城ヶ辻 保	田中 祥雄	梨本 幸男	藤木 成忠
	田中 誠	北村 勝信		

「記録印刷部会」	仲庭 裕明	片岡 俊二	西野 公庸	戸谷 晴治
	川辺 清	道上恵三郎	辻野昌之介	村野 寿昭
	片山 保彦			

あ と が き

雑感……さよなら懇親パーティーにて



大阪堂島ロータリークラブライラ担当理事
第 2660 地区青少年活動委員会委員
片岡 亥一郎

秋のライラ 3 日目、宮田ガバナーエレクトのご挨拶を頂き、閉講式を無事終え、最後のプログラム、「さよなら懇親パーティー」となる。ウーロン茶の入ったグラスを片手にジャズバンド「クリステイカウヨとフ

ログハウス」の演奏に聞きほれる。そしてしんみりとライラ実行に至る過去一年のドラマをふりかえってみる。

ドラマは平成 14 年 9 月 9 日、第 4 回理事会にてライラのホストを受けるかどうかの審議から始まる。賛成、反対、5 : 5 の決議で難航し、当時の北会長の GO ! の決裁でようやくスタートを切る。

北会長を実行委員長に、小生が副委員長。決議に賛成した理事メンバーが委員となりライラ実行委員会が結成された。それから 14 回の委員会を重ねる。委員会進行のポイントは、1 番目にテーマ、2 番目に予算、3 番目に実行準備日程の配分だ。

- 1、どうせやるならライラを通じて青少年にどんなリーダーとしての価値観を期待するのか。
- 2、当クラブの会員実数は徐々に減り、普段のクラブ運営収支も厳しいのにライラの経費は一切捻出できない。
- 3、1 年の期間をいかに段取りよく準備し、会員全員参加の実行に移していけるのか。

ポイント毎にドラマは小気味良く展開した。そしてその都度ドラマの主人公は入れ替わる。さすがロータリーだ。企業におけるリーダーシップ養成を主眼としたセミナーをライラ史上初めて採用した。又、2660 地区全クラブ登録達成の偉業を成し遂げ、ライラ単独予算で収支は成立した。実行本番 2 ヶ月前には、委員会は 5 つの部会に分かれ、各委員が部会長となる。いよいよ本番に向けての準備に入る。そして 2 回のクラブフォーラムで全会員が部会に所属する。

5 : 5 の決議でスタートしたドラマが全員参加のドラマになった。

「本番は 1 回だけ！」「ミスは許されない！」何度もチェックを重ねる。そして平成 15 年 9 月 13 日本番開始。上級、初級のライラを無事終えて今、最終のパーティーの真っ最中。

長いようで短かった1年のドラマを終え、今、ウーロン茶を飲みながら胸一杯の達成感に酔いしれる。上級ライラ受講生を代表した菅原小理恵さんの感謝のことばを思い浮かべて感涙する。

ドラマの立役者はライラに関わった全ての人達だ。中でも上級ライラ受講生の指導にあたって頂いた、大阪府青少年活動財団の酒井洋幸部長と坂谷恵司主幹。初級ライラのセミナー講師、(株)タクト&アクトの青木テル先生と(株)シーエムオーの川崎桂子先生だ。そして終始一貫、ライラ運営の御指導をしていただいた2660地区青少年活動委員会の北山孝和委員長だろう。

感謝！御礼！ドラマの最後の主人公は、やはり80名の上級、初級ライラの受講生だ。ライラ受講生は3日間のライラを終えて疲労と開放感に浸っている。初日、この舞洲の地に訪れた彼らの表情と一人一人何処か違う。「このライラで何かを掴んでくれ！」「このライラで感じたものを人生懸けて育ててくれ！」「ロータリーのライラの奉仕を君たちの手でもっと大きな社会の奉仕につなげてくれ！」そんな願いをこめ、ロータリアンと若者が、手に手をつないで秋のライラの幕は下りた。

夕暮れの舞洲は肌寒く、いつの間にか秋の気配を一層深めていた。



